

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 8 授業例①

A.A. 先生

指導計画表

(全6時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■文法の導入 ・ 語句・表現の導入と定着
2	・ 文法, 語句・表現の復習 ■GET ・ 本文の導入・理解・定着
3	・ 語句・表現の復習 ・ GET の復習 ・ 会話文を語り文に ■とびら ・ 自己表現活動 ・ 友だちの意見を聞く ・ 自分の意見を言う ■USE ・ 本文の導入・理解
4	■USE ・ 本文の理解 ・ グループ活動 ・ ペア活動
5	■USE ・ 本文の理解・定着 ・ ペア活動 ・ 自己表現活動
6	■USE ・ 自己表現活動

実践例

1. 3年間、一緒に学んできた仲間も卒業

中学校生活も残り少なくなり、これまで学んできた「英語」について、あらためて「なぜ英語を学ぶのか。英語の有用性は何か。」について生徒自らが考える良い機会になるのがこの課である。生徒たちは教科書に出てくる登場人物たちの意見を聞き(読み)、参考にしながら、自分にとって英語とは?という問いに対する答えを探す。文法や新出語彙、語句・表現の導入は先に進め、各授業はじめに帯学習的に、ペアワークなどで定着させながら、友だちの意見を聞く(読む)、自分の意見を述べる(書く)ことに重点を置いて授業を進めた。p.93のPracticeは課の学習の最後で復習的に用いた。

2時間目、文法や語句などの帯学習による復習のあと、

T: Can you say all characters in this textbook?

Ss: Kumi! Ken! Meiling! Emma! Mr. Oka!

(などなど…教科書に出てきた登場人物を口ぐち
に生徒は挙げていく。生徒たちは3年間慣れ親しんできた登場人物に愛着があり、これまでも、ケンとエマは付き合っているとか、久美はボールが好きなど勝手な想像をして楽しんできた。)

T: Yes. We have many friends in this textbook. And these friends are also finishing junior high school. Kumi and Raj are talking about their junior high school days. Let's listen.

二人はどんな話をしているかな?と日本語での問いかけをしたあと、教科書p.92のGETの本文を(教科書は開けずに)CDで3回聞かせた。その後、二人の話の内容についてわかったことをペアで話し合わせる時間を1分与えた。ペアで内容確認をしたあと、再び本文を1回聞かせる。その後はクラス全体に二人の会話の内容がどのようなものであったかを問いかけ、クラス全体として確認をした。その後もう一度本文を聞かせる。続いて、その内容に関するTrue or False形式の問題3問を口頭でたずね、(各問2回ずつ)生徒にはそれぞれどちらかに手を上げさせた。次に、ワークシート(資料1)を配布し、教科書を開けて本文を見ながらCDで二人の

会話文を聞かせ、先ほど口頭で行ったことの確認を、ワークシートの1, 2でさせた。本文の内容が理解できたところで音読を何度かバリエーションを変えながら行った。まずは①教師のあとに続いて発音やイントネーションを確かめながらゆっくりリピート、②ふつうの会話のスピードでリピート、③コーラスリーディング、④ペアで、1分間に何度も片方が音読(もう片方は相手のスピードに合わせてながら口の中で音を出さずに読みながら相手の読んだ回数を数える)その後交替。⑤教師と生徒全員で久美とラージのパート読み。(その時教師は教科書を見ずにセリフを言う、生徒にもできるだけ教科書を見ずに言うよう求めた)⑥生徒同士のペアでパート読み。(このときも教科書はできるだけ「ちら見」で、と指示した)⑦ワークシートの3、日本語だけを見ながら各自でリーディングをしたあと自己テストの時間を3分程度与えた。(各自のレベルに応じて行うので早い生徒は仕上がる。残りは宿題にした。)

2. 意見を聞こう、意見を言おう

3時間目は、帯学習的な語句文法の復習のあと、本文の復習。教師が本文の日本語を言い、生徒がそれを英語にする活動を行った。ずっと英語が出てこない生徒もいたが7, 8割は、音読とその後の宿題で覚えているので言える。教科書を開けて発音、リズムイントネーションの確認のためリピート。教科書を見ずに教師と生徒によるパート練習、その後ペアによるパート練習。復習が終わった時点で、教科書を閉じて、key wordsを参考に内容をretellingさせた。(資料2・ワークシートの4)ペアを変えてもう一度retellingをさせた。2回の練習のあと、3分間書かせる時間を与えた。そのあと、解答例を配布して音読し、自分で書いたものと比べて確認をさせた。解答例はワークシートの空きスペースに写させた。このretellingの活動は、これまでの課でも行ってきたので、スムーズにできる生徒が増えてきたが、やはり表現する時に、語順等でつまずく生徒はいる。模範解答を自分で写し書くことにより、「こ

う言えいいのか」と納得する姿が見られた。その後、教科書 p.91 の「とびら」を開けて、Why do you learn English? と質問を投げかける。1 分間 Thinking Time を与えて考えさせたあと、ペアで互いに質問をして答え合う活動を行った。ペアを変えて合計で 3 回行った。久美の意見として Oral Introduction を CD で聞かせた。ペアワークと久美の意見を参考にして自分の意見を書かせた。(辞書使用可。ワークシートは提出させた)

Why do you learn English? に対する友だちの意見を聞き、自分の意見を述べ、書いたあとで、pp.94-95 の READ を開けて、「私たちにとって英語とは何か」に対する教科書の登場人物 6 人の意見を、1 人ずつ、タイトルの部分は本文を流す前にそれぞれクラス全体で確認したあと、CD で聞き、次に教師が少しゆっくりめに読み、それを聞きながら大事だと思われる部分に線を引いていかせた。教師が読み方を少し工夫すると、苦手な生徒も大事な部分をつかみやすいようだ。6 人分の意見を聞き、線を引いた後、ワークシート(資料 3)を配布して、教科書 p.96 の In-Reading, Post-Reading を 4 人のグループ学習で取り組ませた。途中でチャイムが鳴ってしまったので次回へとつなげた。

4 時間目も帯学習として語句・表現の復習をしたあと、前回のグループワークの続きを行った。習熟度の先生に授業に入っていただき、二人でグループ間巡視をしながら、手助けの必要なグループにはその都度アドバイスをしてワークシートに取り組ませた。グループワークにより英語を苦手とする学習者も課題に取り組み、得意な生徒は教えることにより、より一層理解を深めたように思われるが、グループによっては、学習を引っ張っていくリーダーが不在で教師の手助けがかなり必要であった。解答例を提示して個人で確認作業をさせた。6 人の意見の内容を理解したうえで、音読を行った。まずは、①教師のあとに続いて発音やイントネーションを確かめながらゆっくりリピート、②ふつうの会話のスピードでリピート、③コーラスリーディング、④ペアで代わる代わる 6 人の意見を読み、6 番目の久美まで読むと、最初のラージから順序を入れ替えもう一度読んだ。

3. English for Me

5 時間目は、pp.94-95 の READ の音読の復習から始めた。①教師のあとに続いて発音やイントネーションを確かめながらゆっくりリピート、②ふつうの会話のスピードでリピート、③コーラスリーディング、と前回と同じように③まで練習したあと、④ペアで交互に 6 人の意見から一つ自分で選び、40 秒間読み続ける。40 秒たったら教師の合図で交替して、もう片方が自由に一つ選び、また 40 秒間音読した(速い生徒は、2 回半から 3 回ほど音読できる)。音読のあと、どの人物の意見に自分は共感するか、クラス全体に問いかけて 1 つを選ばせた。「自分の選んだ人物の意見を、その人物になりきって教科書を見ないで言ってみよう。」と課題を出し、自主練時間を 3 分与えた。生徒は一斉に声を出しながら練習をして覚えるが、中にはまだ発音に困る生徒が各学級で 2~3 人いたので、自主練習中に指導をした。自主練のあと、ペア練習として互いに教科書を見ずに、適度な間を取りながら、その人物になりきってセリフを言う活動を 3 回行った。1 回終わるごとに 1 分間の自主練時間を取ったので、3 回目にはずいぶん上達してセリフを言うことができていた。

3. エマや健たちの寄せ書きに 自分の意見を書く

「共感できる人の意見を参考にして、自分の意見を寄せ書きに書こう」と指示をしてワークシートを配布して下書きをさせた。(資料 4)辞書の使用を可能にして、机間巡視をしながら書かせた。出来上がった生徒は 3 割程度いたが、多くの生徒は仕上がらず、残りは宿題となった。

6 時間目の授業では、宿題として提出させた下書きを添削したものを返却し、清書をさせた。(資料 5)添削は、生徒のレベルに応じてヒントの出し方を変えて対応した。生徒たちはヒントをもとに、英文を訂正し、自信のないものは教師に質問しながら書き直した。自分の似顔絵を描き、色鉛筆やカラーペンを使って、思い思いにデコレーションしながら清書をしていた。不思議と、英語を苦手とする生徒たちも、それなりに前向きな自分の意見を書いてい

たことが印象に残っている。また教科書の6人の意見の中で自分の意見と重なるところは引用しても良いとしたので、下書きの段階で全くかけないという生徒がいなかったのは良かったように思われる。この課の授業を振り返ると、課全体としての進め方はこれまでと同様のやり方なので、生徒たちにはなじみがあり、スムーズに進んだ。音読をたくさんいれることにより、本文の内容理解が進むように思われる。自己表現の寄せ書きには、自分の将来の夢なども含めて、「自分にとって英語とは何か」を書く生徒も多くいた。しかし、やはり一部の英語を大変苦手とする学習者には、ある程度のフォーマットのようなものを用意する必要があったようにも思う。（下書きでの添削に非常に時間がかかる）全体としては、教科書の登場人物ともお別れなので最後の課を楽しもうという雰囲気が進められたことがよかった。